

**製品名:** シトロンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab08832

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用****希釈倍率** IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	CIT
別名	CIT; CR1K; KIAA0949; STK21; Citron Rho-interacting kinase; CR1K; Serine/threonine-protein kinase 21
遺伝子 ID	11113.0
SwissProt ID	O14578
免疫原	抗血清はヒト CTRO 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1011-1060

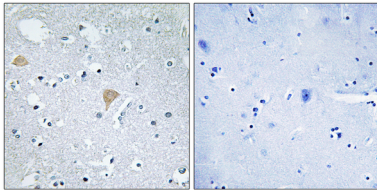
**背景**

この遺伝子は、細胞分裂において機能するセリン / スレオニンタンパク質キナーゼをコードしています。キネシン KIF14 とともに、

このタンパク質は中心紡錘体および中間体に局在し、効率的な細胞質分裂を促進する働きをします。このタンパク質は中枢神経系の発達に関与しています。この遺伝子の多型は、双極性障害および統合失調症のリスクと関連しています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2011年8月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: KIF14が中心紡錘体および中間体へ局在するために必要。細胞質分裂において役割を果たす可能性があります。GTP結合型のRHOおよびRAC1に結合する推定RHO/RACエフェクター。in vivoでは、より強い特異性でp21に結合すると考えられます。セリン/スレオニン残基とチロシン残基の両方における自己リン酸化および外因性基質のリン酸化を触媒する二重特異性タンパク質キナーゼ活性。細胞質分裂の調節と中枢神経系の発達において重要な役割を果たす。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。AGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。類似性: AGCキナーゼC末端ドメインを1つ含む。類似性: CNHドメインを1つ含む。類似性: PHドメインを1つ含む。類似性: ホルボールエステル/DAG型ジnkフィンガーを1つ含む。類似性: タンパク質キナーゼドメインを1つ含む。サブユニット: 活性化状態に応じてKIF14と直接相互作用する(キナーゼ不活性型との相互作用が強い)。ホモ二量体。

## 研究分野

## 画像データ



CTRO抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。